

【美濃市】 校務 DX 計画

現在、GIGA スクール構想の実現により、学校における ICT 環境は大きく変化し、教育現場での ICT の活用が加速している。しかし、それに伴いサイバー攻撃による個人情報や機密情報の流失、外部からの不正アクセス、不正利用などのリスクが高まっており、情報セキュリティの強化がより重要となっている。利便性を高めるとともにセキュリティ対策も強固にする必要がある中で、今後は ICT を活用して校務の効率化と教職員等の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減を図り、大規模災害等が起きた場合でも持続可能な環境の整備を進めていくとともに、ゼロトラストの考えに基づくセキュリティ対策の導入など、安全安心に校務を活用できる環境づくりを目指す。また、「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、校務 DX に係る取り組みを行い、教職員の働き方改革を推進していく。

1. 次世代校務支援システム

岐阜県内の多くの自治体が導入している、岐阜県統合型校務支援システム「Te-comp@ss」を利用して、学校での児童生徒の学籍情報や成績等の情報を一元化管理することで、教職員の業務負担軽減とともに、教職員が子どもたちへ向き合う時間を創出した。今後、教職員の業務負担軽減に加えてコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を整備するために、教育の情報化を進め、教育の質の向上や教職員の働き方改革を、他の自治体や関係部署と協議を重ねていくとともに、システムの標準化やデータ連携などを検討していく。

2. ペーパーレスの推進

学校間や教育委員会と学校との連絡や通知は、原則、メールや共有フォルダを利用して情報の共有等を行っている。1人1台端末導入後は、児童生徒への各種連絡、保護者への連絡ツールとして「スマート連絡帳」を導入して、連絡の迅速化やペーパーレス化を推進し、校務の効率化を進めた。また、保護者へのアンケートやイベントの出欠確認等の保護者向けの書類においては、オンライン申請システム「LOGO フォーム」を導入して、ペーパーレス化だけでなく、アンケートや申込書の作成、集計等の効率化も図っている。学校の職員会議においても、タブレット端末を活用し、教職員間での情報の共有やペーパーレス化に努めている。今後は学校間をまたぐ会議でもタブレット端末の活用を推進してペーパーレス化をより一層進めていく。

3. 押印の見直し

押印の見直しについて、保護者や外部とのやり取りで押印・署名が必要な書類においては、関係部署と連携を取る中で、押印の必要性を再度図り、押印の廃止ができる書類は様々なツールを活用した電子化でのやり取りを推進する。今後継続的に押印等の必要性を考慮し、必要に応じて見直しを図る。

4. 図書電子化

デジタル田園都市国家構想交付金を活用して、学校図書館システム「探調TOOL」を導入した。従来の紙での管理から、各児童に割り振られた番号をバーコードで読み取り、管理できる仕組みとなった。また、マイナンバーカードを利用した地域住民への貸出も行い、地域開放型図書館を実現した。今後は、タブレット端末を活用した電子書籍の普及をし、デジタル社会に対応した図書環境の整備を検討していく。